

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790300077		
法人名	有限会社 エイム		
事業所名	ホームすみれ		
所在地	香川県坂出市川津町字東山田5638番15		
自己評価作成日	平成24年10月14日	評価結果市町受理日	平成24年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiryousoCd=3790300077-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様のことをまず第一に考え、できる限りの個別支援を一日の中で実践しています。やり過ぎない介護をこころがけ、個々のADL(日常生活動作)を活かした生活支援を提供しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>事業所は静かな山里にあり、清潔に保たれた共有スペース・居室が用意されていて、利用者は落ち着いた様子で、それぞれの時間を過ごしている。 管理者は、理念の「安心」＝「笑顔」をサービスの提供の基として、利用者の個性を尊重し、その人らしい暮らしを笑顔で支え、安心して生活できるような介護を目指している。また、職員の育成にも努力している姿勢がうかがえる。利用者の重度化が進むなか、食事が楽しみや喜びとなるよう、食事作り・配膳・おやつ作りなど、心身の力の維持・向上につながるよう工夫している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小さな問題点の中からも、それが入居者様の目線であるかを考えるように職員間で話し合っています。	管理者は職員とともに、「安全」＝「笑顔」を基に、利用者に安心した生活を提供しようとケアの実践を心がけている。	理念に基づいた、個別性を尊重した介護をめざす視点を全職員で共有し、より実践につなげることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が重度化するとともに地域への参加が難しくなっています。	自治会に入会はしていないが、近隣の旧家から野菜・桃などをもらったり、食材の買物時に散歩をして知人に会うなど、日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が地域貢献するまでに至っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行えていません。	運営推進会議は5月に開催されて以降、開催されていない。管理者は、開催の必要性・意義などは十分に理解している。	定期的に運営推進会議を開催し、事業所で取り組んでいる内容について報告・話し合い、その意見をサービス向上に活かしていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会への参加や介護相談員の受け入れを行っています。	事務連絡のほか、市のグループホーム連絡会への参加や介護相談員の受け入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	アドバイスを受けていた玄関の施錠については、入居者様の出たい様子がみられたときには一緒に行くなど、対応できています。	管理者は利用者の安全性を考慮して、玄関の施錠をしている。車椅子の安全ベルト着用・ナースコールの除去などについては、その都度、家族の承諾を得て実施している。日常生活の中で、その他の身体拘束の対象となる恐れがある事例については、その都度、指導・教育している。	今後も身体拘束について職員間で話し合い、共通認識を図り、家族等にホームの取り組みや工夫を示すことで理解を得て、抑圧感のない暮らしの支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常において、高齢者に対する虐待防止について職員間で注意をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方がおらず、勉強会を開くには至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には事業所の方針、利用内容を説明し、利用者がホームでの生活に合うか、十分話し合いをし、理解、納得を得られたうえで入居されています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から小さなことでも聞いていける間柄を重視し、希望や願いを聞くように努めています。また、相談や報告などはこまめにするようにしています。	毎月、家族等に利用者の写真とあわせて個別に便りを出し、日々の生活状況を伝えている。花見・クリスマス会には家族等に参加してもらい、意見や要望を聞いたり、面会時に伺い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスなどで聞くように努めています。	管理者は、月1回のカンファレンス時に加えて、話しやすい状況を作り、職員の意見や提案を聞く機会を持つよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務姿勢、意欲、勤続年数を考慮しつつ、昇給を行っています。また、残業がないように環境整備をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に通常業務の中で、指導を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市によるグループホーム連絡会を通じ、今後も積極的に意見交換などを行っていきたいと思います。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報を収集するとともに、職員間でも細かく記録を取ったり、とにかく無理をしないように配慮をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居することで「お世話になる」、「迷惑をかける」といった思いが強くなることを十分把握しながら、言いやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のできることを十分話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できているようですが、職員全員が自身の思いから、入居者様との関係を構築できるようにしていきたいと思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	課題があがったり、イベントの時など、ご家族に相談したり、ご協力を求めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に頼っているところが大きいです。	利用者は買物等に出かけたり、理・美容室に行くほか、家族が帰省した折には、自宅で泊まるなど、家族の協力を得ながら関係継続の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持てるように、職員が間に入り支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、継続的な関わりを必要としている入居者様やご家族はいませんが、いつでも相談に乗れるように退居の際に説明しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全ての思いを叶えることは、できない現状でも、できる限りご本人様の気持ちを考えて、プラン作りに取り組んでいます。	職員が一人ひとりの思いや意向に関心を持ち、生活の中での態度や表情から把握し、利用者の意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族のお話をじっくり聞くように努めています。また、それを活かせるように職員間で話し合いも行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況が急に変わる時もあり、書式、様式を気にせず、柔軟に対応するように努めています。また、できそうに思うことについても、職員間で連絡し合い、できなくならないようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	書式のプランが、後からついてくる形になりがちです。口頭では、ご家族や職員間でこまめに連絡を取り合っています。	管理者・介護支援専門員が毎月、モニタリングを行っている。カンファレンス時に介護計画を検討・立案し、家族には電話・手紙等で連絡・相談して承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、簡素化することと重要項目をピックアップできる形のバランスに苦しんでいます。情報の共有はまずまずできているものの、日々の実践となると課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、取り組めていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前にご家族と相談を行っています。また、可能な限り、受診支援を行っています。	本人や家族の希望により、入居以前からのかかりつけ医の受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取り、看護師が週1回来ています。それ以外でも、不安なことなどは相談し連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、ご家族の同意が得られる限り、同行させてもらうなどし、情報の提供に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に行えてはいませんが、機会がある場合は慎重に、また、頻繁にご家族や主治医、職員と話し合いをするように努めています。	看取りの経験は2回ある。マニュアル等の作成には至っていないが、入居時から本人・家族等と話す機会を持ち、状況に応じて家族・主治医・職員で話し合うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていないものの、緊急時の対応については、個別に指導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した実践が行えていません。	消防署の協力を得て防火訓練を行っている。また、災害時の非常食等の準備がある。	夜間に災害があった場合などにも対応できるような訓練・対策について、具体的に取り組むことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけについては、日々指導を行っています。ただ、指導されるだけではなく、職員一人ひとりが自発的に考えるように取り組めればと思っています。	管理者は職員への接遇教育に力を入れており、利用者個々に応じた声かけにより、利用者は落ち着いた雰囲気でも過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、小さなことから「どっちがいい？」など選択してもらうように心がけています。ただ、やはりご本人様からの要望が引き出せないことに悩むことは多いです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになりがちになっているような時は、カンファレンスなどで話し合い、振り返るように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の面では十分にできていると思います。その上のおしゃれを楽しむところまではできていません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理ができる方には、台所作業のお手伝いをしてもらっています。最近、できる方が少なくなり、今後、食事作り、配膳にどのように関わっていただくかがテーマになっています。	献立は管理者が立てている。また、週3～4回、食材を買いに利用者とともに出かけている。週2回、利用者とおやつ作りを行い、食事を1日の大切な活動の一つにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面のことも、ご家族と話し合いを行い、ご本人の好きな物を提供して欲しいとの考えがある場合は、できるだけ希望を優先するように心がけています。時には医師に相談をします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診を利用しながら、毎食後の口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	病気などでオムツを着用することがあっても、回復とともに元に戻せるように努めています。また、尿意が薄れていてもトイレに座る習慣を大切にしています。	排尿記録と利用者の様子から状況を把握して、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に対して、歩くことや食物繊維をとることなどに努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の意思を尊重しながら入浴が行えています。	週2回を基準に、利用者一人ひとりのその日の希望に合わせて入浴支援をしている。嫌がる利用者には、タイミングを合わせて声かけし、入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムにメリハリがつくように支援しています。昼寝や傾眠が強い時には、休んでもらえるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬に関して、周知はできていませんが、すぐに薬の処方箋が見られるようにしています。また、薬の変更や副作用など注意点がある時には、その都度、職員間で周知するように心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の状態が重度化するにしたがって、個別支援の在り方を再度、検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援については、できている方とできていない方の開きが大きくあります。	利用者の重度化が進む中、行事や遠出が計画されている。家族の方の協力を得ながら、希望にそった支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があり、ご家族の理解が得られれば、金銭を所持されています。外出においては、金銭を使用されている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、できるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの分かりやすさについて、もう少し改善できるのではないかと考えていますが、その他は落ち着いて過ごせるようになっていると思います。	玄関は家庭的な雰囲気、ホールは清潔に保たれ、手作りのカレンダーがつけられたり、遠出した時の写真が飾られている。共有スペースからは、四季を感じられる見晴らしが広がり、利用者はソファにゆったりと座り過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外で、一人で過ごす時間を満喫できる空間はありません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけご家族にご協力していただきながら、居室を親しみやすい空間にするよう努めています。	各居室の入り口には、利用者の好みの暖簾がつけられている。また、清潔に保たれた居室には、思い出の写真・作品・手紙などを手元に置いて、居心地よい居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰に介護しないように、カンファレンスなどで話し合いを行っています。		